

いたちかわらばん

通刊45号 颯川・狹川 / 川原番・瓦版 '09 春号



【版画 宗森英夫】

(下流からみた新橋)

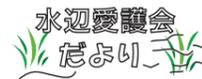
時まさに春、サクラの季節。桜と言えば（花あれば西行の日とおもふべし・角川源義）の句を思い出す。西行は（ねがはくは花の下にて春死なんその如月のもちづきのころ）と詠み、その通りに建久元年（1100）花の下に死んだ平安・鎌倉期の歌僧で桜好きの代表みたいな人です。さて、西行ではないが、栄区内にも有名な「莊川桜」があることは、本紙第二四号にも記されていて広く知られています。しかし、もう一つ有名な「シドモア桜」があることをご存知でしたか？「ああ、あれか！」と言う人も多いでしょう。けれども「シドモア桜？」と言う人もいるのではありませんか。この桜は「一九一二年、東京からワシントンへ友好・親善のため桜の苗木三千本が送られました。」

その桜はポトマック河畔一帯に植えられ、世界的な桜の名所になりました。桜の植樹にあたり、大きく貢献したのがエリザベス・シドモアさんです。シドモアさんは今、横浜の山手外人墓地に眠っています。そのポトマック河畔の桜が、一九八七年に里帰りをし、シドモアさんの墓碑の傍らに植えられました。ここにある桜は、横浜に眠るシドモアさんのエピソードを伝えるため、市民ボランティアが接ぎ木により苗木を作り、育てたものです。と記された看板を付けて「上郷・森の家」の道路脇に植えられています。

シドモアさんについては色々な資料で調べてみて下さい。きっと桜を通じて太平洋を越えた日本と米国の友好の歴史や西行と同じく桜の神秘的な美しさに心惹かれた米国婦人の思いに新鮮な感慨を持つことが出来ることでしょう。そして天園に花見に出掛けたら帰り道を自然観察センターから森の家方面に歩いてシドモア桜にも会ってやって下さい。

(ピンテール)

シドモア桜



長倉町小川アメニティ

「長倉町小川アメニティ」は栄区南東部のいたち川の上流にあります。横浜自然観察の森の「みずきの池」から小川となり、岩肌からにじみ出た水、雨をあつめた小さな沢、そして長倉町住宅地の西側を流れる「長倉町小川アメニティ」となっています。じつは現在のこの緑道の下には、四角い大きなコンクリート管が敷設してあり、本流はこの暗渠を流れています。この区間は突然の雨でもゲリラ洪水の心配のない安全な、緑とせせらぎの満喫できる親水散策路となっています。もちろん増水しているときに小川で遊ぶことや足をすべらして橋から落ちることは危険です。毎年6月上旬にはゲンジボタルが観察されます。長倉町の皆さんが30余年このホタルの里を守ってきました。愛護会の環境学習活動イベントは、子ども会といっしょに夏休みに実施しています。昨年8月24日に「いたち川をもっときれいにさわやかに、身近に楽しもう2008！」として開催しました。講師には「いたち川OTASUKE隊」の宗森隊長と和久井さんをお願いして「いたち川の生き物、草木、外来種のお話」をたくさん聞きました。「ホタルの話クイズ編」も楽しい思い出になりました。5年連続でイベントができたのは、お二人に支えていただいたおかげです。ありがとうございました。

長倉町小川アメニティ愛護会（佐藤）



いたち川のホタル

今なぜ、ホタルの話なのか？ ホタルは川底の石や木の葉の下で春が来るのを待っているのです。4月の中旬になるとホタルの幼虫は、雨の降る夜に地上に這い上がって土の中に潜り込み土繭を作ります。その中でさなぎと成り、40日経つと這い出て来て、晴れてホタルの成虫に成るのです。

その時期、水辺に立ち入って踏み固めると、ホタルの幼虫は土に潜ることも出来ないし、土の中のさなぎを踏み殺すことになるので、夏の夜を彩るホタルを守るために皆で気をつけましょう。

ホタルの種類は、世界中では約2,100種、日本には50種余といわれています。では、横浜市には何種類のホタルがいますか？

①ゲンジボタル、②ヘイケボタルは良く知られています。この2種類の幼虫は水生昆虫で、成虫は発光して飛翔します。この2種類のホタルは、卵、幼虫、さなぎ、成虫期と一生発光しています。そのほかには、ムネクリイロボタル、カタモンミナミボタル、クリマドボタル、オバボタル、スジグロボタルの種類がありますが、ほとんどが発光しません（幼虫の時発光します）ので見つけることは難しいのです。

(横浜ホタルの会パンフレットより) 水・人・子

今年の夏もやるよ！

さかえなんでも知り隊～いたち川知り隊～

昨年も好評だった『いたち川知り隊』を今年も実施します！

栄区のシンボルリバーである「いたち川」にどんな魚や昆虫がいるのか、みんなで調べてみよう。

アブラハヤ、オイカワ、テナガエビが見られるかも…。

募集方法等の詳細は、学校から配布されるチラシか「広報さかえ6月号」をご覧ください。

発行年月
2009年3月

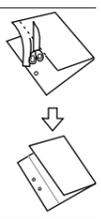
通刊45号

発行：狹川OTASUKE隊（いたちがわおたすけたい）

OTASUKE隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8161 FAX 045-895-2260
栄土木事務所下水道・公園係 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-6-1
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421
(お便り・お問い合わせは こちらまで)

切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です



いたち川知り隊 (パート2)

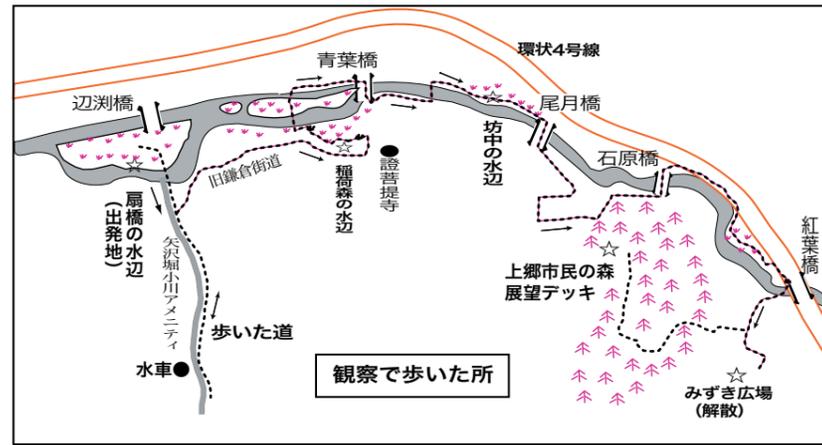
●小学生1年生～6年生を対象とした“いたち川知り隊”は第1回が昨年7月31日に実施され、31人の参加があり、①いたち川の水生物、②水質調査、③植物観察が行われた。2回目の今回はその続編として12月6日(土)扇橋の水辺～上郷市民の森「みずきのひろば」までの約3kmを散策し、いたち川に来る渡り鳥や植物の観察を行うことになった。

当日は晴れ、前日夕方の強風を伴った雷雨がうそのような快晴であった。気温は11°C、風もそれほどでもなく、絶好の散策日和となった。9時40分頃からリュックを背負った親子づれの参加者が扇橋近くの集合場所「扇橋の水辺」に三々五々と集まってきた。集合場所から扇橋の方を眺めると橋の欄干の右肩に雪を戴いた富士山がくっきりと。富士山は北緯35°21'27"にあり集合地点(北緯35°21'31")とはほぼ同緯度にあり、ほとんど真西に望める。(本紙28号の版画をごらん下さい)

今回の参加者は小学生21名と保護者11名の32名で一班17名、二班15名に分けて散策することになった。サポートメンバーは企画元の栄区役所地域振興課のFさん、G課長、N係長、区政推進課から2名、それにいたち川OTASUKE隊から7名が参加した。

一班はOTASUKE隊のイベント部長のWさんがリーダー、二班はOTASUKE隊のM隊長がリーダーになり、それに各サポートメンバーが分散して随行した。10時にM隊長あいさつの後、Wさんが扇橋の水辺付近の環境復元について紹介し、地域振興課のFさんより子供達への約束ごと、①静かにお話をよく聞こう！②いろいろな発見をしよう！③見つけた鳥や植物をメモしよう！④前日の雨で滑りやすい、足元に注意しよう！などの注意があり、一班から出発となった。

●まず、矢沢堀小川アメニティに向かう。右に曲がった稲荷橋の所でコーン型魚道水路を見ながら説明をうける。高低差3mの水路を魚道のおかげでアブラハヤやオイカワなどののぼる姿が見られるそう。車道を左に渡り、小川沿いに散策木道を歩く。清らかな流れで昨年頃からゲンジボタルが見られるようになったとのこと。まだ数は少ないそうだがどんどん増えてくれればと思う。ホタルの幼生の餌となる巻貝のカワニナを見つけ、子供達に手にとって観てもらおう。殻頂はしばしば侵食され欠けるが、この小川は石灰分が多いので欠けずに尖っているそう。観察後そっと小川に戻す。ガマズミが熟した赤い実をつけている。甘酸っぱくて食べられるとの説明で口にする子もいる。途中で手押しポンプが設置されていて、呼び水を入れる柄杓が置いてある。何人かの子供達が呼び水を入れ水を汲んで大喜びしていた。自然環境教育用に設置されているのだとの説明があった。やがて、本紙31号



でも紹介した矢沢堀の水車に到着。この水車で水を攪拌して、水中に酸素を供給しているとの説明に子供達はうなずいて、感心していた。近くの木にシジュウカラの巣を発見した。

トンボ池のある取水口に到着。矢沢堀小川アメニティの起点で遊水池の水をサイホンの原理を応用して水を流入させているとの説明があった。池の周辺のアサザ、セリ、ヒメガマ、クレソン等の植物を観察後小休止。カワラヒワやアオジ、ヒヨドリなど小鳥のさえずりが聞こえる。早速野鳥観察。近く柿の実には何羽かのメジロが飛び回っている。地域振興課のFさん作成の“いたち川流域で見られる主な鳥”が配られていて、25種類の野鳥のイラストがカラーで載っており、見つけた鳥や声を聞いた鳥を記入できる。取り出して、子供達は見つけた鳥に○をつける。振り返ると右手の田んぼの畦道にはキジバトが2羽餌をついばんでいた。のどかな風景である。

●ここから来た道を半分ほど戻り、右に折れて旧鎌倉道を進む。昔ながらの旧道で右手の山の斜面には、トリカブト、ニリンソウ、サラシナショウマ、ムラサキケマン(蝶の食草)、アザミ、ユキノシタ、ヒヨドリジョウゴ(ヒヨドリがこの実を好んで食べることから名付けられたとされるが実際には冬になっても赤い実が残っていることが多い)等々が見られる自然の宝庫である。ヒヨドリがヒーヨ！ヒーヨ！と鋭い鳴き声をだして飛び回っている。左手にはこの頃見ることが少なくなったカラスウリが何個も赤い実をつけているのが見える。葉を落とした樹上には、細い木の枝を集めた巣が何個か丸見えになっている。鳥の巣かと思ったが、タイワンリスの巣とのことであった。そういえばクックッという鳴き声も聞こえる。タイワンリスは樹木の樹皮をはがして食べたり、コゲラやシジュウカラといった小鳥の雛や卵を食べる被害も報告されていて、特定外来生物に指定されている。あまり増えてほしくない動物である。やがてサギの形を模った稲荷森の水辺の休憩所に到着し、ひと休みとなった。

●休憩後水辺に降り、野鳥を観察しながら、木橋を1か所、2か所、

3か所と渡った。ホオジロやキジバト、ヒヨドリなどが確認できた。水辺から右岸を上流へと戻り、青葉橋にでる。橋の上の電線には野鳥がよく羽根を休めていて、つい先日はムクドリ、シジュウカラが止まっていたが、今日は20羽ばかりのドバトに占領されていた。青葉橋を渡り左岸を上流へ向かう。すぐの所に2mを超す見事な皇帝ダリアが12月というのに、大輪の花を5つ咲かせていた。葉月橋を渡り右岸へ。この辺りはアオサギ、コサギ、カルガモがよく見られるが、今日はつがいのアイガモが気持ち良さそうに泳いでいた。やがて坊中の水辺に到着。カワセミが下流に向かって水辺をかすめるように飛んでいった。ここはカワセミのビューポイントで、休日ともなると多くのカメラマンが集まってくる。尾月橋の下ではコガモが2羽、近くの岩にはハクセキレイがいた。

尾月橋を渡り、ちょっと住宅地にはいり、尾月自治会館手前の階段を降り、梅林から赤く塗られた石原橋へ向かう。ここでもカワセミの飛翔がみられた。橋下ではカルガモが2羽、仲睦まじく泳いでいた。石原橋を渡り、環状4号線沿いに少し歩き、火の見やぐらの所から川沿いに歩く。環状4号線沿いのこんな近くにこんな自然があるなんてと思わずにはいられない。マクドナルド手前の紅葉橋(架け替え工事中)を渡るといたち川は4号線の反対側に続いているが、我々はそのまま右へ、第百ゴルフ場の下から流れ出ている支流に沿ってゴール地点の上郷市民の森の下にある通称“みずきの広場”に11時50分到着した。近く柿の木には赤い実が実っていてメジロやヒヨドリが飛び回って実をついていた。ここで、一班、二班、集合し挨拶の後、解散となった。

●解散後、希望者は上郷市民の森の展望デッキまで登ることになり、上郷森の会代表であり、いたち川OTASUKE隊隊員でもあるKさんの案内で10分程で到着。展望デッキは北緯35°21'27"にあり、富士山と丁度同緯度にあたる。西側に開けていて、正面に富士山、右手に丹沢山地、左手に箱根の山々が望めた。ここからダイヤモンド富士が望めるのは3月24日と表示されていた(ダイヤモンド富士については本紙28号をご覧ください)。

暫く展望を楽しんだ後、それぞれ昼食となり、解散となった。今回の2時間程の散策では、普段はよく見られるコサギやアオサギの美しい姿が何故か見られなかったのは、少々残念ではあったが、子供達は素晴らしい体験ができたことと思う。このような催しを通じてもっと多くの子供達にいたち川の素晴らしさを知ってもらえたらと思う。(Y・F記)



タイワンリスの巣